第二十講・大造(だいぞう)じいさんとがん②（物語文）

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

がんの群(む)れを目がけて、白い雲の辺りから、何か一直線に落ちてきました。

「はやぶさだ。」

がんの群れは、残雪(ざんせつ)に導(みちび)かれて、実にすばやい動作で、はやぶさの目をくらませながら、飛び去っていきます。

「あ！」

一羽、飛びおくれたのがいます。大造じいさんのおとりのがんです。長い間飼(か)い慣(な)らされていたので、野鳥としての本能(のう)がにぶっていたのでした。

はやぶさは、②その一羽を見のがしませんでした。

じいさんは、ピュ、ピュ、ピュと、口笛をふきました。こんな命がけの場合でも、③飼い主のよび声を聞き分けたとみえて、がんは、こっちに方向を変えました。

はやぶさは、その道をさえぎって、ぱあんと、一けりけりました。ぱっと、白い羽毛が、あかつきの空に光って散りました。がんの体は、ななめにかたむきました。もう一けりと、はやぶさがこうげきの姿勢(しせい)をとったとき、さっと、大きなかげが空を横切りました。残雪です。

大造じいさんは、ぐっと、じゅうをかたに当てて、残雪をねらいました。が、何と思ったか、④また、じゅうを下ろしてしまいました。

残雪の目には、人間もはやぶさもありませんでした。ただ救わねばならぬ、仲間のすがたがあるだけでした。いきなり、敵(てき)にぶつかっていきました。

そして、あの大きな羽で、力いっぱい相手をなぐりつけました。

〈椋鳩十(むくはとじゅう)「大造じいさんとがん」より〉

(1)　――線②「その一羽」とは、何のことですか。文章中から十三字でぬき出しましょう。

(2)　――線③「飼い主」とはだれですか。

(3)　――線④「また、じゅうを下ろしてしまいました」とありますが、その理由としてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　自分の力では、残雪をうつことはとても無理だと思ったから。

イ　残雪のすばやさに、どうしてもねらいが定まらなかったから。

ウ　残雪が、おとりのがんを助けようとしていることに気づいたから。

エ　残雪とはやぶさの戦いを、じっくり見物しようと思ったから。

(4)　この文章の特ちょうを述べたものとしてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　出来事を、時間の経過にしたがって細かく表現している。

イ　大造じいさんの心の動きをていねいに表現している。

ウ　大造じいさんのおとりのがんとはやぶさの戦う様子を、力強く表現している。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　**次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。**

残雪の目には、人間もはやぶさもありませんでした。ただ救わねばならぬ、仲間のすがたがあるだけでした。いきなり、敵にぶつかっていきました。そして、あの大きな羽で、力いっぱい①相手をなぐりつけました。

不意を打たれて、さすがのはやぶさも、空中でふらふらとよろめきました。が、はやぶさもさるものです。さっと体勢を整えると、残雪のむなもとに飛びこみました。

ぱっ

ぱっ

羽が、白い花弁のように、すんだ空に飛び散りました。そのまま、はやぶさと残雪は、もつれ合って、ぬま地に落ちていきました。

大造じいさんはかけつけました。二羽の鳥は、なおも地上ではげしく戦っていました。が、はやぶさは、人間のすがたをみとめると、急に戦いをやめて、よろめきながら、飛び去っていきました。

残雪は、②むねの辺りをくれないにそめて、ぐったりとしていました。しかし、③第二のおそろしい敵が近づいたのを感じると、残りの力をふりしぼって、ぐっと長い首を持ち上げました。そして、じいさんを正面からにらみつけました。それは、鳥とはいえ、いかにも頭領（とうりょう）らしい、堂々たる態（たい）度のようでありました。

大造じいさんが手をのばしても、残雪は、もう、じたばたさわぎませんでした。最期（さいご）のときを感じて、せめて、頭領としてのいげんをきずつけまいと努力しているようでもありました。大造じいさんは、④強く心を打たれて、ただの鳥に対しているような気がしませんでした。

残雪は、大造じいさんのおりの中で、一冬をこしました。春になると、そのむねのきずも治り、体力も元のようになりました。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ある晴れた春の朝でした。

⑤じいさんは、おりのふたをいっぱいに開けてやりました。残雪は、あの長い首をかたむけて、とつぜんに広がった世界におどろいたようでありました。が、

バシッ！

快い羽音一番。一直線に空に飛び上がりました。

らんまんとさいたすもも の花が、その羽にふれて、⑥雪のように清らかに、はらはらと散りました。

「おうい、がんの英ゆうよ。おまえみたいなえらぶつを、おれは、ひきょうなやり方でやっつけたかあないぞ。なあ、おい、今年の冬も、仲間を連れてぬま地へやってこいよ。そうして、おれたちは、

また、堂々と戦おうじゃあないか。」

大造じいさんは、⑦花の下に立って、こう、大きな声で、がんによびかけました。そうして、残雪が北へ北へと飛び去っていくのを、はればれとした顔つきで見守っていました。

⑧いつまでも、いつまでも、見守っていました。

〈椋鳩十（むくはとじゅう）「大造じいさんとがん」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　――線①「相手」とは、だれ（何）ですか。

(2)　――線②「むねの辺りをくれないにそめて」とありますが、これはどんな様子を表していますか。次の中からもっともふさわしいものを選び、記号で答えましょう。

ア　残雪が大きなけがをしている様子。
イ　残雪が戦いに勝った様子。
ウ　残雪が非常に興（こう）ふんしている様子。

(3)　――線③「第二のおそろしい敵」とはだれ（何）ですか。

(4)　――線④「強く心を打たれて」とありますが、大造じいさんは残雪のどんな様子に「強く心を打たれ」たのですか。文章中の言葉を使って、二十五字以内で答えましょう。

(5)　――線⑤「じいさんは、おりのふたをいっぱいに開けてやりました」とありますが、何のためにそうしたのかを述べた次の理由のうち、ふさわしくないものを選び、記号で答えましょう。

ア　残雪の仲間をよび寄（よ）せるおとりにするため。
イ　残雪を仲間のところへ帰すため。
ウ　残雪とまた今年の冬、堂々と戦うため。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(6)　――線⑥「雪のように清らかに」は、何のどんな様子を表していますか。

(7)　――線⑦「花」とありますが、どんな「花」ですか。文章中から十三字でぬき出しましょう。

(8)　――線⑧「いつまでも、いつまでも、見守っていました」とありますが、このときの大造じいさんの気持ちとしてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　これでまたいつか、残雪が仲間を連れてもどってくれれば、今度こそこちらの力を見せてやれる、と期待する気持ち。

イ　いっしょに一冬を過ごしたことで別れをつらく思いながらも、残雪の無事をいのるやさしい気持ち。

ウ　強力な敵を助けてやれたことの満足感と、残雪のすばらしさをたたえる気持ち。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十講・確認テスト

次の□に当てはまる身体の一部を入れ、慣用句を作りなさい。

１　□が出る——お金が足りなくなること
ア　手　イ　足　ウ　頭　エ　目

２　□が軽い——おしゃべりであること
ア　口　イ　手　ウ　足　エ　鼻

３　□が空く——時間ができること
ア　足　イ　頭　ウ　手　エ　ひざ

４　□にかける——自慢（じまん）すること
ア　鼻　イ　手　ウ　足　エ　首

５　□をたてにふる——うなずくこと
ア　手　イ　足　ウ　頭　エ　首

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十講　大造じいさんとがん②（物語文）

一題目

(1) 大造じいさんのおとりのがん
(2) 大造じいさん
(3) ウ
(4) ア

二題目

(1) はやぶさ
(2) ア
(3) 大造じいさん（人間）
(4)（例）最期（さいご）のときを感じても頭領（とうりょう）らしく堂々としている様子。
(5) ア
(6)（例）らんまんとさいたすももの花の、空中にまい散る様子。
(7) らんまんとさいたすももの花
(8) ウ

〈確認テストの解答〉

１　イ　２　ア　３　ウ　４　ア　５　エ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。